

7月8日（日）に四日市市文化会館にて開催されたイベント取材しました。

第5回在宅フェア2018 地域まるごと語る

主催：明日の地域医療を考える住民の会・あした薬

後援：四日市市、社会福祉法人四日市市社会福祉協議会、
四日市市自治会連合会、（一社）四日市薬剤師会、
（一財）日本尊厳死協会東海支部、（一社）元気じるし東海

地域資源ブース

午前第1部

四日市アコギ倶楽部

午前第2部

琴伝流大正琴四日市支部「ブルーリーブス」

えきん
笑み筋トレ
「ハッピーネット」

四日市市長
（ビデオメッセージ）

在宅医からのメッセージ

花戸貴司医師

滋賀県永源寺地域の在宅医療を担い「チーム永源寺」を率いて高齢者の在宅看取り、重度障害を持つ子のケアを行う。地域医療の講義、認知症への取り組みにも尽力する。

「これからの医療 これからの地域」

永源寺地域での「在宅医療」

在宅医療は医師一人ではできません。寝たきりや認知症であっても、また老夫婦、一人暮らしであっても在宅で生活することは可能です。しかしそのためには医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、ホームヘルパー、デイサービススタッフ、ケアマネージャー、行政、家族、ご近所の方々などの多職種連携が必要です。

限られた条件の中でのサポートを行うために、関わる人間が全て参加し、情報を共有するサービス担当者会議を月1回行ない、それぞれが専門分野を活かして「チーム永源寺」として患者さんを見守っています。また、プロだけでは埋められない部分のサポートとして「地域のチカラ」…住民による生活支援サポーター「絆」が結成されました。話し相手（無料）、活動協力金（買い物、送迎など）100円（1時間以内）、そうすることでお互いが気を使わないのです。

地域まるごとケア

地域の一人一人が地域の一人一人を支える。そんな地域であれば、年を取っても認知症になっても安心して生活が続けられるでしょう。（地域コミュニティが必要）

地域とともに

往診のほか、老人クラブで健康教室、乳幼児、保育園、幼稚園の健診、少年野球チームのチームドクター、学校医

をしている山上小学校では、内科健診と一緒に各学年1時間ずつ時間をいただき「いのちの授業」をしています。

高学年にはタバコや睡眠、テレビ、ゲーム、スマホなどの生活習慣のお話を。低学年の子どもたちには、聴診器で互いに心臓の音を聞いてもらい、お母さんのおなかの中にいる時からずっと動いているんだよ。たった一つの大事な命なんだよと伝えます。また、読み聞かせの会に入れてもらい、週1で本の読み語りをしています。

全ての人が、安心して人生をまっとうできますように。

90歳認知症のおばあちゃんの傍らに
ひ孫が2人



全ての人が、住み慣れた地域で安心して暮らつづけられますように。地域で「医療というだけでなく、医療をとおしての「地域づくり」だと考えています。

二ノ坂保喜医師

福岡県福岡市で1996年3月「いのさかクリニック」を開業。人生の最期は住み慣れた家で豊かな生活の中で迎えるべきと考え、在宅医療に邁進。海外のボランティア活動にも尽力している。

花戸先生のお話には、通じる所がたくさんあるなあと聞いておりました。これまで1000人近い患者さんを在宅で診てきました。

患者さん、ご家族お一人お一人にいろんな物語があります。そこに私たちが関わっていくわけです。その経験は私たちの財産になっています。

クリニックの広報誌「ひまわり」を地域の中にたくさん配布し、クリニックが何をやっているか、今、医療が考えていること、在宅がやろうとしていること等を紹介しています。